

<英語活動>

英会話能力の基礎を高める学習指導の工夫

～JTE との連携を通して～

宜野湾市立大謝名小学校教諭 當 眞 嗣 郎

目 次

I	主題設定の理由	2 1
II	研究の目標	2 1
III	研究仮説	2 1
IV	研究の内容	2 2
	(1) 「英語科」の目標について	2 2
	(2) 内 容	2 2
	①言語活動	2 2
	②言語活動の取り扱い	2 3
	③英語指導者の役割	2 4
V	検証授業での取り組み	2 5
	1 授業の流れを大切にした実践	2 5
	2 検証授業指導案	2 5
	(1) 題材	2 5
	(2) ねらい	2 5
	(3) 目標	2 5
	(4) 教材感	2 6
	(5) 検証授業に向けての JTE と HRT の役割分担及び連携内容	2 6
	(6) 本時の指導案	2 8
	(7) 検証授業の感想	3 0
	(8) 授業仮説の検証	3 0
VI	研修報告会での指導案	3 1
	○単元の取り扱い	3 1
	1. 題 材	3 1
	2. ねらい	3 1
	3. 教材感	3 1
	4. 児童の実態	3 1
	5. 指導計画	3 2
	6. 授業仮説	3 2
	7. 単元の展開 (3 時間取り扱い)	3 2
	1 時間限目の授業	3 2
	2 時間限目の授業	3 5
	3 時間限目の授業	3 7
VII.	研究の成果と今後の課題	4 0

## <英語科>

### 英会話能力の基礎を高める学習指導の工夫 ～JTE との連携を通して～

宜野湾市立大謝名小学校教諭 當 眞 嗣 郎

#### I 主題設定の理由

平成 17 年度より本校は英語教育特別区域として教科として英語科の授業を全学年実施することになった。その趣旨は「創造性・国際性に富む人材の育成」を目標に、小学校から「英語科」を新設し、現行の教育課程を弾力的に運用して、小中一貫した系統的な英語教育を行い「児童生徒の生きる力の育成及び国際化の時代に必要な外国人との実践的コミュニケーション能力の基礎を育むこと」を目的として実施された。特に教育特区の英語科の目的として、「国際理解教育のねらいを踏まえ、英語学習を通してコミュニケーション能力の育成や積極性、国際感覚を培う。」とし、その活動は、「①国際交流活動。②実用的英語活動。③自国及び外国の文化学習。」などである。その活動を実施するため、児童の発達を踏まえた系統的なカリキュラムがつけられている。また、宜野湾市小学校外国語（英語）教育特別区域の英語学習指導要領が示されている。そこには、小学校での英語の目標及び内容が学年ごとに明記されている。また、指導内容も児童の興味・関心のある歌やゲームを中心に楽しめる内容になっている。

本研究では、児童生徒が楽しく学習しながら英会話が身につく授業の展開にはどのような方法があるのか、また、学級担任と JTE とが連携して、英会話の聞くことや話すことの実践的コミュニケーション能力の基礎を培う研究を深めていきたい。そのため授業の展開では、JTE の先生の英語の発声を児童に聞かせることに重点をおいた指導案作りを目指し、より日常的な英会話に親しませるようにしたいと考える。

そこで、JTE の英会話を聞かせる授業を中心に展開するために事前の打ち合わせを重視し、連携を図りながらそれぞれの役割を担って授業に望むことができれば、児童が英語を聞き理解する能力を向上させることができるだろうと考え、本テーマを設定した。

#### II 研究の目標

JTE との連携を通して日常的な英語の発声や表現を、授業の中に多く取り入れていくことで、児童の英会話能力を育てる。

#### III 研究仮説

##### 1. 基本仮説

児童が普段生活の中で使っている会話を、英語の表現に置き換えて指導案の中に取り入れ、英語の発声や表現で伝えていければ、児童の英会話に対する能力は高まっていくだろう。

##### 2. 具体仮説

- (1) 日常的な生活の場面をプロジェクターで投影したりフラッシュカードを活用しながら JTE の英語の発音に多く触れさせ、さらに、歌やゲームを取り入れた授業を中心に指導すれば英語を身につけやすいだろう。
- (2) JTE の英語の発音やリズムの感覚を学習させ、児童が普段生活の中で使っている会話

を多く取り入れる授業を組み立てれば、児童の英会話に対する興味が高まり、表現力も培われるだろう。

#### IV 研究の内容

##### 1 「英語科」の指導書から、授業実践に向けての留意点を学ぶ

###### (1) 「英語科」の目標について

###### 第1目標

外国語を通じて、外国語や外国の文化に対する関心を高め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う。

小学校での英語の目標及び内容

###### 目標

- ①英語の音声の特徴に触れ、慣れ親しみ、基礎的な英語を聞き、話しての伝えたいことが理解できるようにする。
- ②基礎的な英語を話すことに慣れ親しみ、場面や相手を考えて自分の言いたいことを伝えることができるようにする。
- ③英語を読むことに慣れ親しみ、基礎的な英語が読めるようにする。

###### (2) 内容

###### ①言語活動

英語に触れ、慣れ親しむために、次の言語活動を6学年間を通して行わせる。

###### A 聞くこと

(第1学年及び2学年)

- (ア) 基礎的な英語の音声の特徴に関心を持つこと。
- (イ) 簡単な語句を聞き取ること。
- (ウ) 簡単な質問や依頼、あいさつがわかること。

(第3学年及び4学年)

- (ア) 基礎的な英語の音声の特徴に親しむこと。
- (イ) 基礎的な文を聞き取ること。
- (ウ) 基礎的な文で表される質問や依頼、あいさつがわかること。

(第5学年及び6学年)

- (ア) 基礎的な英語の音声の特徴がわかること。
- (イ) 自然な口調で話されている基礎的な英語を聞き取ること。
- (ウ) 基本的な質問や依頼、あいさつに応じること。

###### I 話すこと

(第1学年及び2学年)

- (ア) 基礎的な英語の音声の特徴を真似て発音すること。
- (イ) 場面などに応じて、簡単な語句を使って表現すること。
- (ウ) 積極的に話そうとすること。

(第3学年及び4学年)

- (ア) 基礎的な英語の音声の特徴を意識して発音すること。

(イ) 場面などに応じて、自分の言いたいことを簡単な語句で表現すること。

(ウ) 積極的に続けて話そうとすること。

(第5学年及び6学年)

(ア) 基礎的な英語の音声の特徴を正しく発音すること。

(イ) 場面などに応じて、自分の言いたいことや気持ちを簡単に表現すること。

(ウ) 沈黙をしないで、聞き手にわかるように話そうとすること。

#### ウ 読むこと

(第5学年及び6学年)

(ア) 基礎的な英語の文字を識別し、正しく読むこと。

(イ) フォニックスを通して簡単な単語を識別し、正しく読むこと。

#### エ 書くこと

(第5学年及び6学年)

(ウ) 基礎的な英語の文字を識別し、正しく書くこと。

(エ) フォニックスを通して簡単な単語を識別し、正しく書くこと。

### ② 言語活動の取り扱い

#### ア 6学年間を通じた全体的な配慮事項

6学年間を通じ指導にあたっては、次のような点に配慮するものとする。

(ア) 低・中学年では英語に触れたり、慣れるための活動を行う。

(イ) 高学年では実際に言語を使用してお互いの気持ちを伝え合うなどのコミュニケーションを図る活動を行う

#### イ 学習段階を考慮した指導上の配慮事項

児童の学習段階を考慮して、各学年の指導に当たっては、次のような点に配慮するものとする。

##### (ア) 第1学年における言語活動

英語を初めて学習することに配慮し、歌やチャンツ、ダンス、ゲーム、挨拶や自己紹介などの簡単な表現や遊びを通して指導し、遊びの中でリズム、強勢、イントネーション等の発音の基礎を培う活動を中心に授業を行う。

##### (イ) 第2学年における言語活動

第1学年の学習を基礎として、歌やチャンツ、ダンス、ゲーム、挨拶や自己紹介などの簡単な表現や遊びを通して指導し、遊びの中でリズム、強勢、イントネーション等の発音の基礎を培う活動を中心に授業を行う。

##### (ウ) 第3学年における言語活動

第2学年の学習を基礎として、歌やチャンツ、ダンス、ゲーム、挨拶や自己紹介などの簡単な表現を遊びを通して指導し、遊びの中でリズム、強勢、イントネーション等の発音の基礎を培うとともに簡単な語句及び文を聞き取る活動を中心に授業を行う。

##### (エ) 第4学年における言語活動

第3学年の学習を基礎として、歌やチャンツ、ダンス、ゲーム、挨拶や自己紹介などの簡単な表現を遊びを通して指導し、遊びの中でリズム、強勢、イントネーション等の発音の基礎を培うとともに簡単な文を聞き取る活動を中心に授業を行う。

(オ) 第5学年における言語活動

第4学年の学習を基礎として、歌やチャンツ、ダンス、ゲーム、挨拶、地域の文化の紹介や外国人との交流学习等を通して、基礎的な表現を実際の場面での言語使用を通じた指導を行い、相手に伝える会話の基礎を培うとともに自然な口調で話されている文を聞き取る活動を中心に授業を行う。

(カ) 第6学年における言語活動

第5学年の学習を基礎として、歌やチャンツ、ダンス、ゲーム、挨拶、地域の文化の紹介や外国人との交流学习等を通して、基礎的な表現を実際の場面での言語使用を念頭においた指導を行い、タスクを中心とした、相手に伝えるコミュニケーションの基礎を培うとともに自然な口調で話されている文を聞き取る活動を中心に授業を行う。

中学校と小学校の英語教育の相違点

	中学校	小学校
理念	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一斉学習になりがち</li> <li>・覚える学習が中心である</li> <li>・文法等系統性を重視した活動</li> <li>・書くこと、読むこと中心の授業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊び感覚を尊重した授業展開</li> <li>・児童及び教師が共に楽しむ授業</li> <li>・身近な生活を中心とした授業内容</li> <li>・聞くことや話すこと等音声中心の授業</li> </ul>
方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書を使用して教える</li> <li>・生徒の知に訴える授業</li> <li>・説明及びドリル中心</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに基づいて、教材教具の準備</li> <li>・五感を使い、遊びに訴える</li> <li>・活動中心（ゲーム、クイズ、歌、ごっこ遊び）</li> </ul>
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領の内容</li> <li>・「させたいこと」が中心</li> <li>・覚えるための言語活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こどものニーズを教材化</li> <li>・「したい」ことが中心</li> <li>・ゲームに必要な言語材料</li> </ul>
結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・努力して覚える</li> <li>・努力感、達成感</li> <li>・テストがある</li> <li>・5段階で評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が自然に身に付く</li> <li>・楽しく授業に取り組む</li> <li>・テストなし</li> <li>・記述式で生徒の良い面を中心に評価</li> </ul>

英語活動の理念としては「英語嫌いを作らない」ことが大切です。コミュニケーション能力や積極性、国際感覚を身に付けさせることをねらいとして、遊び感覚を授業に生かしながら子どものニーズにあった授業内容を考え、記述式による、子どもの良い面をとらえた評価により子どものやる気を起こさせ、小中連携の英語教育により将来の英語教育に夢を持たせるような活動を目指す。

③英語指導者の役割

ア 担任 (Home Room Teacher = HRT)

小学校では基本的に学級の子どもの学習指導と生活指導の両方を担当しているが、英語に直接触れたり、外国の生活・文化に慣れ親しむという趣旨から、外国語指導助手

や日本人英語教師の活用で、多様な授業展開を可能にする協同授業 (Team Teaching) などの授業形態の工夫も必要となる。

イ 外国語指導助手 (Assistant Language Teacher=ALT)

ALTは、ネイティブスピーカーとして、生きた英語の提供者である、日常生活のいろいろな場面で、自然な英語の使い方や発音を指導する。異文化の体験者として、外国の様々な習慣や考え方、生活様式、発想を子ども達に伝えることができ、外国や外国語への興味を喚起する。また、直接授業をすることだけでなく、日本人教師と協力して教材や教具を準備することも重要な役割である。

ウ 日本人英語教師 (Japanese Teacher of English=JTE)

学級担任と協力しながら指導に当たっている日本人英語教師も学級担任と同様、小学校で英語を指導するのが初めての経験だが、指導計画や活動などを提案したり、学級担任やALTと打ち合わせを補助したり、調整する役割を果たしたりしている。授業中には子どもの反応を見ながら、前時の授業でのALTの言葉が通じていない場合には補足の説明や言い換えで補ったり、また子どもがALTと直接関わってコミュニケーションを図れるように調整する。

これらのことを踏まえて授業を行う必要がある。

V. 検証授業での取り組み

1. 授業の流れを大切にした実践。

- (1) あいさつ・復習 (Greeting & Review)
- (2) 歌・・・ジェスチャーを交えて歌う。(Sing a song)
- (3) これまで習った英単語の復習。フラッシュカード
- (4) 本時の学習内容の導入  
新しい会話や教材の提示 (Introduction of today is topic.)
- (5) 学習内容に慣れるための活動  
ゲームを取り入れた活動 (Activity)
- (6) まとめ・確かめ (Wrap・up)

授業では、児童に新しい歌やゲームの紹介、日常会話の提示、日本昔話のパワーポイントでの映写などを行い児童が楽しめるようにしたい。

2. 検証授業指導案

7月8日 (金曜日) 2校時

大謝名小学校 6年

男 15名 女 17名 計 32名

研究教諭 當眞嗣郎

JTE 稲嶺優子

担任 花崎太郎

(1) 題材：スポーツ

(2) ねらい：好きなスポーツをたずねたり答えたりしてゲームを楽しむ。

(3) 目標：①What is your favorite sport?

My favorite sport is baseball.

の質問や返答ができる。

②国際理解を促す質問に答えようとする。

(4) 教材感

① 平成17年度より本校は英語教育特別区域として教科として英語科の授業を全学年実施することになった。その趣旨は「創造性・国際性に富む人材の育成」を目標に、小学校から「英語科」を新設し、現行の教育課程を弾力的に運用して、小中一貫した系統的な英語教育を行い「児童生徒の生きる力の育成及び国際化の時代に必要な外国人との実践的コミュニケーション能力の基礎を育むこと」を目的として実施された。特に教育特区の英語科の目的として、「国際理解教育のねらいを踏まえ、英語学習を通してコミュニケーション能力の育成や積極性、国際感覚を培う。」とし、その活動は、「①国際交流活動。

② 実用的英語活動。③ 自国及び外国の文化学習。」などである。その活動を実施するため、児童の発達を踏まえた系統的なカリキュラムがつくられている。また、宜野湾市小学校教育外国語（英語）教育特別区域の英語学習指導要領が示されている。そこには、小学校での英語の目標及び内容が学年ごとに明記されている。また、指導内容も児童の興味・関心のある歌やゲームを中心に楽しめる内容になっている。

検証授業では、児童が楽しく学習しながら英会話が身につくように、JTEと連携して進めてきた。英会話の「聞くことや話すこと」の実践的コミュニケーション能力の基礎を培うため、JTEの英語の発話を中心に授業を展開し、役割を担って授業に望むことができれば、児童が英語を聞き理解する能力を向上させることができるだろうと考えたからである。

さらに、研究授業としてカリキュラムには無い内容も導入した。それは、国際理解につながる問題や日常よく使う表現を付け加えたことである。あまり、比重を置いた指導はしないが付け加えることで、英語に親しませる狙いがある。さらに教材や教具を利用して視覚的にも楽しめるように実践したい。

授業のまとめでは、児童に本時の大切な会話を先生と交わすことで達成感を味わわせ、ポイントを与えて教室へ返すことにした。

(5) 検証授業に向けての JTE と HRT の役割分担及び連携内容

活動内容	JTE の役割	HRT の役割	事前の打ち合わせ事項
13分 Greeting & Warm up May I come in? What day is today? How is the weather? 歌 ♪Twelve month フラッシュカードの発声。 スポーツの発声練習。	模範発声指導を行う。 Yes. you may. 児童に質問をおこなう。ほめる等	授業を進行する。 一緒に迎い入れる。	教室に入るときから挨拶を行う。 児童への質問事項の確認。
	歌の事前指導実施。	授業を進行する。	歌詞の準備、 児童がフラッシュカードを用いて自分たちで行う
	児童に質問や発話の練習をさせる。 質問を投げかける。	授業を進行する。	フラッシュカードを用いて児童が練習する。
10分 ねらいを聞く。		授業を進行する。 ねらいを示す。	今日のねらいをプロジ

<p>かるたゲーム</p> <p>6 人のグループに別れ円を描く。 児童は JTE への質問を行う。 What is your favorite sport? とたずねて、 JTE が My favorite sport is baseball. 答えた単語のスポーツのカードをとる。</p> <p>※たくさん集めた児童に 1point!</p>	<p>ゲームの事前指導。 説明を行う。 デモンストレーションを行う。</p> <p>児童の質問に答える。</p> <p>ポイントを与える。</p>	<p>デモンストレーションを行う。</p> <p>フラッシュカードを引いて JTE へ渡す。 フラッシュカードを配る。</p> <p>JTE にフラッシュカードを見せる。</p> <p>ポイントを与える。</p>	<p>エクターで投影する。 ゲームの進め方の打ち合わせ。 デモンストレーションを行う。</p> <p>フラッシュカードの準備</p> <p>グループに分かれる。</p>
<p>3分 国際理解を促す問題に答える。 何を言ってるかを検討して答える。</p> <p>14分 インタビューゲーム (一斉) (What is your favorite sport? My favorite sport is baseball.) 新しい会話や教材の提示 ①ワークシートをもらう。 ②好きなスポーツをクラスメイトにたずねて、ワークシートに名前と好きなスポー</p>	<p>HRTに問題を投げかける。 野球の盛んな国はどこですか等。</p> <p>ゲームの説明を英語で発話する。 デモンストレーションを行う。</p> <p>できた児童にポイントを与える。</p>	<p>授業を進行する。 デモンストレーションを行う。 新しい会話や教材の提示を行う。</p> <p>ワークシートを全員に配る。 デモンストレーションを行う。</p> <p>①できた児童にポイントを与える。</p>	<p>デモンストレーションの練習。 野球の盛んな国はどこですか。発展問題を用意する。(別に答えられなくてもよい) (What is your favorite sport? My favorite sport is baseball.) JTEとHRTで互いに質問し合う。</p> <p>ワークシートの準備。</p> <p>ポイントカードの準備。</p>



ツを書く。 10人に質問したら2 point! もらう			
3分 まとめ、終わりの挨拶	掲示物を見ながらま とめる。	授業を進行する。 新しい会話や教材 の提示を行う。	整列させる。 読むこと、発話するこ との定着をはかる。
2分 確かめ	Target Language 発 話させる。	Target Language 発話させる。	発話の復習をしてポイ ントを与える。

(6) 本時の指導案

Lesson Plan

Grade : 6<sup>th</sup>

- ① Topic : スポーツ
- ② Goals of this class : 好きなスポーツをたずねたり答えたりしてゲームを楽しむ。
- ③ Target Language : What is your favorite sport?

My favorite sport is baseball.  
volleyball / basketball / soccer / tennis / swimming / skiing  
cycling / table tennis / badminton.

④ 仮説

ア. 日常的な生活の場面をプロジェクターで投影したりフラッシュカードを活用しながら JTE の英語の発音に多く触れさせ、さらに、歌やゲームを取り入れた授業を中心に指導すれば英語を身につけやすいだろう。

イ. JTE の英語の発音やリズムの感覚を学習させ、児童が普段生活の中で使っている会話を多く取り入れる授業を組み立てれば、児童の英会話に対する興味が高まり、表現力も培われるだろう。

⑤ 本時の展開

Activity	HRT	JTE	Remarks
13分 < Greeting & Warm-up > 1. あいさつをする。(日直が行う) What day is today? など 2. 授業のルールを確認する。 3. ♪ Twelve month 歌う。 児童が進める。 4. 前時までの復習 countries. subjects. 児童がフラッシュカードをめくる。 JTE からの質問に答える。	・ 児童と一緒に明るくあいさつし楽しい雰囲気を作る。  ・ 楽しく歌える雰囲気を作る。 ・ 復習をする。	・ ルールを確認する。 ・ 発声練習を行う ・ 質問を児童に行う。	CD player  フラッシュカードの準備

<p>27分</p> <p>&lt;Activity&gt;</p> <p>5. 今日のめあて</p> <p>6. スポーツの言い方 発声練習。</p>	<p>・今日のめあてを伝える。</p> <p>活動の用紙を配布する。</p>	<p>発声練習をさせる。</p>	<p>プロジェクターで投影する。</p> <p>フラッシュカードの準備。</p>
<p>7. かるたゲーム（グループ一斉）</p> <p>①6グループに分かれて、円になる。</p> <p>②全員で What is your favorite sport? とJTEにたずねて、JTEが My favorite sport is baseball.答えた単語のスポーツのカードをとる。</p> <p>※たくさん集めた児童に 1point!</p> <p>○国際理解の問題を英語で聞き答える。</p> <p>卓球の強い国はどこですか。</p> <p>例・・・中国</p> <p>その他の質問に児童が答える。</p> <p>8. インタビューゲーム（一斉）</p> <p>①ワークシートを活用する。</p> <p>②好きなスポーツをクラスメイトにたずねて、ワークシートに名前と好きなスポーツを書く。</p> <p>※10人に質問したら 2 point!</p>	<p>デモンストレーションをする。</p> <p>What is your favorite sport?の質問をJTEへする。</p> <p>JTEの答えたカードを取る。</p> <p>児童を支援する。</p>	<p>デモンストレーションをする。</p> <p>My favorite sport is baseball.と答える</p> <p>児童を支援する</p>	<p>カード かるたカード 黒板に貼る。</p> <p>フラッシュカードの準備</p>
<p>②全員で What is your favorite sport? とJTEにたずねて、JTEが My favorite sport is baseball.答えた単語のスポーツのカードをとる。</p> <p>※たくさん集めた児童に 1point!</p> <p>○国際理解の問題を英語で聞き答える。</p> <p>卓球の強い国はどこですか。</p> <p>例・・・中国</p> <p>その他の質問に児童が答える。</p>	<p>JTE: What is your favorite sport?</p> <p>HRT: My favorite sport is baseball.</p> <p>HRT: What is your favorite sport?</p> <p>JTE: My favorite sport is soccer</p>	<p>デモンストレーションをする。</p> <p>JTEの質問に答える。黒板のカードを取る。</p> <p>黒板のカードで答える。</p> <p>インタビューゲームに移らせる。プロジェクターで投影する。</p> <p>ポイントを与える。</p>	<p>フラッシュカードの準備。国カード</p>
<p>①ワークシートを活用する。</p> <p>②好きなスポーツをクラスメイトにたずねて、ワークシートに名前と好きなスポーツを書く。</p> <p>※10人に質問したら 2 point!</p>	<p>デモンストレーションをする。</p> <p>JTEの質問に答える。黒板のカードを取る。</p> <p>黒板のカードで答える。</p> <p>インタビューゲームに移らせる。プロジェクターで投影する。</p> <p>ポイントを与える。</p>	<p>デモンストレーションをする。</p> <p>HRTに質問をする。</p> <p>児童に質問をする。</p> <p>ゲームの説明を行う。</p> <p>ポイントを与える。</p>	<p>フラッシュカードの準備。国カード</p>
<p>5分</p> <p>&lt;Wrap-UP&gt;</p> <p>9. まとめ</p> <p>終わりのあいさつをする。</p> <p>先生方にお礼の挨拶をする。（日直）</p>	<p>・今日の活動を振り返りかえる。</p> <p>That's all for today.</p>		<p>プロジェクターで投影する。</p>

Sit up. Thank you very much, JTE and HRT and everybody See you. Bye. ・確かめ	確かめてポイントを 与える。	確かめてポイント を与える。	ポイントカ ード
---	-------------------	-------------------	-------------

(7) 検証授業の感想を児童に書いてもらった。下記はその資料である。

同類の回答例は割愛した。

- 今日は後ろにたくさんの先生方が座っていてとても緊張しました。でもカルタのゲームの時とインタビューゲームの時はとても楽しかったので今度もやりたいなと思いました。
- もっと英語がわかったらいいなと思った。わかってきたら楽しくなった。
- カルタゲームもちゃんと取れたし、スポーツの名前と歌をだいたい覚えていえた。好きなスポーツは何ですかも簡単に言えるようになった。
- 英語の発音ができたらアメリカの人と話せるからいいなと思います。先生たちは英語で発音できるからすごいなと思いました。ありがとうございました。
- あまり大きな声を出せなかったなので、今度は大きな声を出したいと思います。
- 英語を書くのがけっこう楽しかったです。
- 「スポーツは何が好きですか」と英語で言えませんでした。まわりに偉い先生方がいるからとても緊張しました。でも、英語をもっといかして外国に行って英語で会話したいです。
- インタビューゲームでは、先生に質問ができて、うれしかったです。
- 「天気は何ですか」「何曜日ですか」とかも手をあげて声に出して言えました。
- もっと英語を勉強してみたなあと思った。英語をいっぱいしゃべれるようになってアメリカで友達をつくってしゃべったりしたいと思います。他の国の言葉もしゃべれるようになりたいなあと思いました。

#### (8) 授業仮説の検証

授業後の児童のアンケートからも本時の授業はうまく実践できたと考える。プロジェクターで投影したりフラッシュカードを活用しながら展開したので、児童の興味や関心を高めることができた。JTEの英語の発音やリズムの感覚をゲームの説明の時にはたつぷりと聞かせ英語を身につけやすくしたい。歌やゲームを学習を助ける手段として取り入れていたので楽しく英会話ができ、興味も高まり表現力も向上した。



## VI. 研修報告会での指導案

9月13日(火曜日) 5校時

大謝名小学校 6年2組

男 15名 女 17名 計 32名

研究教諭 當眞嗣郎

JTE 稲嶺優子

担任 花崎太郎

○単元の取り扱い：児童の「したい」ことを中心に、食べ物に関する語句と表現を教材に取り入れた学習指導の工夫 (3時間取り扱い)

1. 題材：ポップコーンを作ろう。

2. ねらい：ポップコーンを作る過程に英語活動を取り入れて楽しく学ぶことができる。

- ①材料や用具を英語で言える。
- ②作り方をチャンツで言えるようにする。
- ③作っての感想が英語で言える。
- ④材料や道具の受け取りを英語で言える。

### 3. 教材感

英語ができる子から英語の好きな子へ、教え込むのではなく教師も子どもたちと一緒に簡単な英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする子の育成。そのため英語の自然な音を多くインプットすることに心がけ、児童の発話を強制しない、子どもの発話を誉めてあげる。教材には児童の実態やニーズ・興味・関心をつかみ、日常生活の友達との遊びや会話などを取り上げたり、他教科との関連をはかったり、季節や行事との結びつきを持たせていくことも今後の課題となりそうである。教材の設定はこれからの英語活動の幅広さを感じさせてくれる。

そこで、本英語の授業では、これまでの歌やゲームやチャンツ中心とするものから、ポップコーンを実際に作る過程で展開できる英語の授業を考えてみた。家庭科の調理実習などではこれまでの教室での授業とは違って児童の学習意欲も高まることが予想される。そこで英会話を取り入れたポップコーン作りを行なえば、無理なく英語の学習が展開できるだろう。しかも、日常よく使う表現にも慣れ親しむことができるだろうと考え本題材を選定した。授業では、調理に使われる材料の名前や道具の英語での発声や、材料の受け取りやその作り方を英語で聞いたり、授業の後の感想まで英語で発声できたらよいと思っている。児童の「聞くことや話すこと」の実践的コミュニケーション能力の基礎を培うため、カリキュラムには無い内容であるが、味覚や視覚に訴えることで、英会話に親しませて展開したい。

### 4. 児童の実態

これまでに数回の英語の授業を行ってきたので児童とのレポートも図ることができた。英語の授業に対するアンケートも2回行った。児童の反応はとても率直であり授業の反省に役立っている。そのアンケートの中から、「英語の学習が楽しく、もっと英語を分かるようになりた。」「外国に行って英語で会話をしたい。」など学習意欲の高さを感じる。これまでの授業と違い、英語の学習が歌やゲームを取り入れて実践されているため授業を楽しみにしている様子が伺える。今回は学習の場を変えて「ポップコーンを作る」過程で使用さ

れる日常的な英語の発声や表現を、授業の中に多く取り入れ、児童の英会話に対する能力が高まっていくことを期待している。

### 5. 指導計画（3時間取り扱い）

指導時間	指導内容	英語の単語や文
1時間目	○ 道具や材料や感想の言い方を知る。	in the frying, frying Pan, butter, stove, popcorn, popping, salt, lid, Shake, turn on, Turn off, put on, good, nice, OK, How does the popcorn taste? It is hot.
2時間目	○ チャンツを使って作り方を知る。	put the butter in, put the salt in, put the popcorn in, put the lid on, Put the frying pan on, turn on the stove, When start popping, Shake it, Shake it, Shake it, When stop popping, Turn off the Stove, Now wait one minute.
3時間目	○ 英語で感想や道具の受け取りを英語で言える。 ○ 片づけがきちんとできる。	How does the popcorn taste? It is good, It is nice, It is OK. How does the salt taste? It is hot. Butter, please, Salt, please. frying Pan, please. Lid, please.

### 6. 授業仮説

- (1) 家庭でも作れるポップコーンを実際に作る過程で英語活動を取り入れた授業を展開できれば英語を身につけやすいだろう。
- (2) JTEの英語の発音やリズムの感覚を学習させ、児童が普段生活の中で使っている会話を多く取り入れる授業を組み立てれば、児童の英会話に対する興味が高まり、表現力も培われるだろう。

### 7. 単元の展開（3時間取り扱い）

#### 1時間限目の授業

#### Lesson Plan 1

Grade : 6<sup>th</sup>

- (1) Topic : ポップコーンを作ろう。
- (2) Goals of this class : 道具や材料や感想の言い方を知る。
- (3) Target Language : in the frying, frying Pan, butter.

stove. popcorn. popping. salt.  
 lid. Shake. turn on. Turn off.  
 put on. good. nice. OK.  
 How does the popcorn taste?  
 It is good.

(4) 本時の展開

Activity	HRT	JTE	Remarks
<p>7分            &lt;Greeting &amp; Warm-up&gt;            1. あいさつをする。(日直が行う)                What day is today? など            2. 授業のルールを確認する。            3. ♪ Twelve month 歌う。                児童が進める。            5. 前時までの復習</p> <p>児童がフラッシュカードをめくる。            JTE からの質問に答える。</p>	<p>・児童と一緒に明るくあいさつし楽しい雰囲気を作る。            ・楽しく歌える雰囲気を作る。            ・復習をする。</p>	<p>・ルールを確認する。            ・発声練習を行う            ・質問を児童に行う。</p>	<p>CD player            フラッシュカードの準備</p>
<p>30分            &lt;Activity&gt;            5. 今日のめあて            6. ポップコーンを作るときの材料や用具を英語での言い方。                発声練習。            butter. salt. popcorn. frying Pan. lid. stove. Turn off the stove. turn on the stove.</p> <p>7. かるたゲーム (グループ一斉)            調理実習のグループに分かれてカルタ取りゲームを行う。            ①6グループに分かれて、円になる。            デモンストレーションを見る。</p>	<p>・今日のめあてを伝える。            活動の用紙を配布する。            デモンストレーションをする。            What is this? の質問を JTE へする。            JTE の答えたカードを取る。            児童を支援する。</p>	<p>発声練習をさせる。            デモンストレーションをする。            This is . . . と答える。            児童を支援する</p>	<p>プロジェクターで投影する。            フラッシュカードの準備。            かるたカードの準備            黒板に貼る。</p>
<p>多くポイントを取った人はポイントをもらう。            ②全員で What is this? と JTE</p>			<p>フラッシュカードの準備。</p>

<p>にたずねて、JTE が this is ... 答えた単語のカードをとる。</p> <p>※たくさん集めた児童に 1point!</p> <p>○味を聞かれたときの返答の練習をする。</p> <p>How does the popcorn taste? It is good. It is nice. It is OK. How does the salt taste? It is hot.</p> <p>黒板のカードを見て答える。</p> <p>8. インタビューゲーム (一斉)</p> <p>①カードを活用する。 ②ポップコーンと塩の味をクラスメイトにたずねたり、質問に答えたりする。</p> <p>※10人に質問したら 2 point!</p>	<p>HRT: What is this? JTE: It is popcorn.</p> <p>HRT: What is this? JTE: It is Turn off the stove.</p> <p>JTE: How does the popcorn taste? HRT: It is good. JTE: How does the salt taste? HRT: It is hot.</p> <p>デモンストレーションをする。 JTE の質問に答える。 It is good. It is nice. It is OK. It is hot. 黒板のカードを取る。 インタビューゲームに移らせる。 カードの配布 ポイントを与える。</p>	<p>デモンストレーションをする。 HRT に How does the popcorn taste? と質問をする。 How does the salt taste? 児童に質問をする。 ゲームの説明を行う。 ポイントを与える。</p>	<p>かるたカードの配布</p> <p>カードの準備</p>
<p>8分 &lt;Wrap-UP&gt; 調理実習に必要な道具をグループで相談して持ってくるものを決める。</p> <p>9. まとめ フラッシュカードを見て材料や用具の発声練習をする。 味についての感想を言わせる。 It is good. It is hot.</p>	<p>・調理実習に必要な道具をグループで相談させる。 ・今日の活動を振り返りかえる。 ・ポップコーン作りの材料や用具をフラッシュカードで発声練習させる。 ・味についての感想の言い方を言う。 That's all for</p>	<p>・児童に発声練習をさせる。 How does the popcorn taste? How does the salt taste?</p>	<p>プロジェクターで投影する。</p>

<p>まとめ</p> <p>終わりのあいさつをする。 (日直)</p> <p>Sit up. Thank you very much. JTE and HRT</p> <p>See you. Bye.</p> <p>・ 確かめ</p> <p>帰るときに、味を先生に聞かれたら自分の感想を述べて帰る。</p>	<p>today.</p> <p>・ 感想を児童に聞いてできた児童にスタンプを与える。</p> <p>How does the salt taste?</p>	<p>・ 感想を児童に聞いてできた児童にスタンプを与える。</p> <p>How does the popcorn taste?</p>	<p>ポイントカード</p>
---	---	--	----------------

2時間限目の授業

Lesson Plan 2

Grade : 6<sup>th</sup>

- (1) Topic : ポップコーンの作り方を覚える。
- (2) Goals of this class : ポップコーンの作り方をチャンツで覚え、グループごとに発表を行うことができる。
- (3) Target Language : put the butter in. put the salt in.  
put the popcorn in. put the lid on .  
Put the frying pan on. turn on the stove.  
When start popping. Shake it. Shake it. Shake it.  
When stop popping. Turn off the Stove  
Now wait one minute.

(4) 本時の展開

Activity	HRT	JTE	Remarks
<p>10分</p> <p>&lt;Greeting &amp; Warm-up&gt;</p> <p>1. あいさつをする。(日直が行う) What day is today? など</p> <p>2. 授業のルールを確認する。</p> <p>3. ♪Twelve month 歌う。 児童が進める。</p> <p>6. 前時までの復習 児童がフラッシュカードをめくる。 JTE からの質問に答える。</p>	<p>・ 児童と一緒に明るくあいさつし楽しい雰囲気を作る。</p> <p>・ 楽しく歌える雰囲気を作る。</p> <p>・ 復習をする。</p>	<p>・ ルールを確認する。</p> <p>・ 発声練習を行う</p> <p>・ 質問を児童に行う。</p>	<p>CD player</p> <p>フラッシュカードの準備</p>
<p>27分</p> <p>&lt;Activity&gt;</p> <p>5. 今日のみあて : ポップコーンの作り方をチャンツで覚え、グループ</p>	<p>・ 今日のみあてを伝える。</p> <p>活動の用紙を配布す</p>		<p>プロジェクターで投影す</p>



<p>づごとに発表を行うことができる。</p> <p>6. (グループ): 6つの調理実習のグループに分かれて円になる。デモンストレーションを見る。</p> <p>・チャンツの練習をさせる。</p>	<p>る。</p> <p>チャンツの説明をする。</p> <p>・道具や材料を持ってデモンストレーションをする。</p> <p>・チャンツの練習をさせる。</p>	<p>・デモンストレーションに合わせて英語で発声する。</p>	<p>る。</p> <p>フラッシュカードの準備。道具や材料を準備。</p>
<p>7. グループでチャンツの練習をする。</p> <p>一つのグループを2組に分かれて、チャンツ読み上げるグループと道具を持ってジェスチャーをするグループに分かれて練習を行う。できたらパートを交代して練習する。</p> <p>put the butter in. put the salt in. put the popcorn in. put the lid on . Put the frying pan on. turn on the stove. When start popping. Shake it. Shake it. Shake it. When stop popping. Turn off the Stove Now wait one minute.</p> <p>できたグループはポイントをもらう。</p> <p>②全員でチャンツの発表会を行う 6つの調理実習のグループが前で発表させる。</p> <p>※上手にできたグループに1point!</p>	<p>児童を支援する。</p> <p>・チャンツの練習内容 HRT: ジェスチャーをする。 JTE: チャンツを読み上げる。</p> <p>put the butter in. put the salt in. put the popcorn in. put the lid on . Put the frying pan on. turn on the stove. When start popping. Shake it. Shake it. Shake it. When stop popping. Turn off the Stove Now wait one minute.</p>	<p>・児童を支援する</p>	<p>・児童を支援する</p>
<p>できたグループはポイントをもらう。</p> <p>②全員でチャンツの発表会を行う 6つの調理実習のグループが前で発表させる。</p> <p>※上手にできたグループに1point!</p>	<p>・児童を支援する</p> <p>ポイントを与える。</p> <p>チャンツの発表会をさせる。</p> <p>ポイントを与える。</p>	<p>・児童を支援する</p> <p>ポイントを与える。</p> <p>・児童を支援する ポイントを与える。</p>	<p>ポイントカード</p>
<p>8分</p> <p>&lt;Wrap-UP&gt;</p> <p>8. まとめ</p> <p>大きな声でフラッシュカードを見て発声する。</p>	<p>・調理実習に必要な道具をグループで確認させる。</p> <p>・今日の活動を振り返る。フラッシュ</p>	<p>・児童に発声練習をさせる。</p>	<p>プロジェクターで投影する。 フラッシュ</p>

<p>終わりのあいさつをする。 (日直) Sit up. Thank you very much, JTE and HRT See you. Bye.</p> <p>・ 確かめ 帰るときに先生にチャンツ読み上げできた人はスタンプをもらい帰る。</p>	<p>カードの活用。 That's all for today.</p> <p>・ チャンツ読み上げさせ、確認のスタンプを押す。</p>	<p>・ チャンツ読み上げさせ、確認のスタンプを押す。</p>	<p>ユカードの準備</p> <p>ポイントカード</p>
---	--	---------------------------------	-------------------------------

3 時間限目の授業

Lesson Plan 3

Grade : 6<sup>th</sup>

(1) Topic : ポップコーンを作ろう。

- (2) Goals of this class :
- ①ポップコーンの作り方をチャンツで言えて作ることができる。
  - ②材料や道具の受け取りを英語で言える。
  - ③味を聞かれたときの返答ができる。
    - マナーを守って活動する。
    - 片づけがきちんとできる。

(3) Target Language : put the butter in. put the salt in.  
put the popcorn in. put the lid on. Put the frying pan on.  
turn on the stove. When start popping. Shake it. Shake it. Shake it. When stop popping. Turn off the Stove Now wait one minute.  
How does the popcorn taste? It is good. It is nice. It is OK.  
How does the salt taste? It is hot.  
Butter. please. Salt. please. frying Pan. please. Lid. please.

(4) 本時の展開

Activity	HRT	JTE	Remarks
<p>1 2 分 &lt;Greeting &amp; Warm-up&gt; 1. あいさつをする。(日直が行う) What day is today? など 2. 授業のルールを確認する。 3. 前時までの復習 発声練習する。 ① 道具や材料や感想を発声する。 frying Pan. butter. stove. popcorn. popping. salt. lid. Shake. turn on. Turn off. put on. good. nice. OK. How does the</p>	<p>・ 児童と一緒に明るくあいさつし楽しい雰囲気を作る。</p> <p>・ 前時までの復習をする。</p> <p>フラッシュカードをめくる。</p>	<p>・ ルールを確認する。 ・ 発声練習を行う</p>	<p>フラッシュカードの準備</p>

<p>salt taste? It is hot.</p> <p>②作り方をチャンツで言えるようにする。</p> <p>put the butter in.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チャンツの練習を行う。</li> <li>・ジェスチャーに合</li> </ul>		<p>プロジェクターで投影する。</p>
<p>put the salt in.</p> <p>put the popcorn in.</p> <p>put the lid on .</p> <p>Put the frying pan on.</p> <p>turn on the stove.</p> <p>When start popping.</p> <p>Shake it. Shake it.</p> <p>Shake it.</p> <p>When stop popping.</p> <p>Turn off the Stove</p> <p>Now wait one minute.</p> <p>JTE からの質問に答える。</p> <p>③味の返答が英語で言える。</p> <p>It is good. It is nice.</p> <p>It is Ok.</p> <p>It is hot.</p>	<p>わせてチャンツを发声させる。</p> <p>よくできたら誉めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・味の質問や返答の復習にはいる。</li> </ul> <p>フラッシュカードの提示。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発声練習を行う</li> <li>・質問を児童に行う。</li> </ul> <p>How does the popcorn taste?</p> <p>How does the salt taste?</p>	<p>材料や道具の準備。</p>
<p>27分</p> <p>&lt;Activity&gt;</p> <p>4. ①ポップコーンを作ることができる。</p> <p>②材料や道具の受け取りを英語で言える。</p> <p>デモンストレーションを見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道具の受け取りの練習を行う。</li> </ul> <p>Butter. please.</p> <p>Salt. please.</p> <p>frying Pan. please.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日のめあてを伝える。</li> <li>時間の配分を伝える</li> <li>・道具や材料を持って JTE とデモンストレーションをする。</li> <li>・OK の返事をする。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童を支援する</li> </ul>	<p>HRT と材料や道具の受け取りのデモンストレーションをする。</p> <p>Butter. please.</p> <p>Salt. please.</p> <p>Frying Pan. please.</p> <p>Lid. please.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童に材料や道具の受け取りを英語で発声練習させる。</li> </ul>	<p>プロジェクターで投影する。</p> <p>フラッシュカードの準備。</p> <p>道具や材料を準備。</p> <p>プロジェクターで投影する。</p>

Lid. please.			
<p>5. (グループ) : 6つの調理実習のグループに分かれポップコーンを作る。</p> <p>・道具の受け取りの英語で行う。</p> <p>Butter. please. Salt. please. frying Pan. please. Lid. please.</p> <p>6. ポップコーンができたグループは1ポイントをもらう。</p>	<p>・チャンツの練習内容</p> <p>JTE: Butter. please. HRT: Ok JTE: Salt. please. HRT: Ok JTE: frying Pan. please. HRT: Ok JTE: Lid. please. HRT: Ok</p>		<p>フラッシュカードの準備</p> <p>ポイントカード</p>
<p>7. 全員で試食会を行う</p> <p>6つの調理実習のグループで試食会をする。</p> <p>手の空いている児童はフライパンを洗う。</p> <p>○マナーを守って活動する。 ○片づけがきちんとできる。 ※上手にできたグループに1point!</p>	<p>・児童を支援する</p> <p>チャンツの発表会をさせる。</p> <p>ポイントを与える。</p>	<p>・児童を支援する</p> <p>・児童を支援する</p> <p>ポイントを与える。</p>	
<p>6分</p> <p>&lt;Wrap-UP&gt;</p> <p>8. まとめ</p> <p>ポップコーンの味について感想を英語で答える。</p> <p>It is good. It is nice. It is Ok. It is hot. 終わりのあいさつをする。 (日直)</p> <p>Sit up. Thank you very much. JTE and HRT and everyone. See you. Bye.</p> <p>・確かめ</p> <p>先生から感想を聞かれたら答える。</p>	<p>・今日の活動を振り返える。</p> <p>・感想を言わせる。</p> <p>That's all for today.</p> <p>・感想を言えた児童に確認のスタンプを押す。</p> <p>How does the popcorn taste?</p>	<p>・児童に質問する。</p> <p>How does the popcorn taste? How does the salt taste?</p> <p>・感想を言えた児童に確認のスタンプを押す。</p> <p>How does the salt taste?</p>	<p>フラッシュカードの準備</p> <p>ポイントカード</p>

## Ⅶ. 研究の成果と今後の課題

### 1. 研究の成果

- (1) 本研究で「英語教育特別区域の英語科」の授業実践を行うことができた。実践では「宜野湾市小学校外国語（英語）教育特別区域の英語学習指導要領」に基づき、先行研究校のカリキュラムを参考にして行ってきた。
- (2) 授業では、JTE と連携して普段生活の中で使っている会話を指導案の中に取り入れて実施できた。研究授業では、児童生徒が楽しく学習しながら英会話が身につく授業の展開例として「ポップコーンを作ろう。」を題材に行った。これからの授業展開に役立てたい。

### 2. 今後の課題

- (1) 今後の課題としては、他校の研究授業の多様な指導案を参考にできれば「英語科」の実践活動が充実したものになるだろう。
- (2) 本校は研究指定校として1年目なので、これから指導方法を学んでいく段階である。これまで、ALT や JTE の先生方のリードで行ってきた授業を自ら工夫を凝らした指導ができるかが課題として挙げられる。

### 3. 終わりに

4 月から半年間「英語科」の授業の展開の仕方を学んできた。授業の展開の仕方や留意すべき点などを今後の教育実践の中に生かしていきたいと思えます。英語の語学力も向上させたかったが力を伸ばすことはできなかった。学校の現場ではゲームの活用や学級掲示物にも力を入れて指導していきたい。本研究を進めるにあたり宜野湾市教育研究所の玉城勝秀所長をはじめ、宜野湾市教育委員会の上江洲隆指導主査、はごろも学習センターの上原等指導主事の丁寧なご指導とご助言をいただきました。大謝名小学校の6年生の担任である花崎太郎先生や JTE の稲嶺優子先生にも大変お世話になりました。深く感謝申し上げます。

### < 主な引用文献と参考文献 >

宜野湾市教育委員会『英語教育特区事業報告書』

東後勝明『ジュニアコロンブス』光村図書

奈良橋陽子『楽しい英語の授業マニュアル』ジャパントイムズ

熊本大学教育学部附属小学校代表者 平和孝嗣校長

『小学校英語活動 365 日の授業細案』明治図書

渡邊寛治『小学校英会話指導のテクニックとプラン』

『今日から始める小学校英語指導の基礎・基本』教育開発研究所

宜野湾市立普天間小学校『平成16年度小学校英語科研究報告書』

宜野湾市教育委員会『宜野湾市英語教育特区実践指導案集 高学年用・中学年用・低学年用』

宜野湾市教育委員会はごろも学習センター『研究報告集録（第25期）』

読谷村立古堅小学校『平成16年度英語活動実践報告』